

### Library and Information Science誌の即時オープンアクセス化のお知らせ

三田図書館・情報学会では、近年のオープンサイエンスの潮流および総合科学技術・イノベーション会議「[公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方](#)」（2023年10月30日）に鑑み、2026年度刊行の第95号から、LIS誌の即時オープンアクセス化を実施します。また、あわせて公開プラットフォームを変更いたします。なお、[KOARA](#)からも引き続き公開いたします。当学会は学術コミュニケーションを重要な研究領域としており、研究環境の変化への適応と中長期的な会員数の維持を目的として本方針を決定いたしました。これにより、会員の皆様の研究成果が刊行直後により広く公開されることになり、被引用機会や社会還元が増大が期待されます。

#### 主な変更点

| 項目       | 第94号まで        | 第95号から            |
|----------|---------------|-------------------|
| 公開時期     | 刊行から1年後       | 刊行と同時に公開（即時OA）    |
| 公開先      | 独自サイトおよびKOARA | J-STAGE および KOARA |
| 投稿資格     | 会員のみ          | 変更なし（会員のみ）        |
| APC（掲載料） | なし            | 変更なし（なし）          |

#### 経緯

2017年度三田図書館・情報学会将来構想ワーキンググループは、LIS誌のオープンアクセスジャーナル化を答申しました（[答申はこちら](#)）。答申では、1年のエンバーゴ、APCは導入しないこと、オープンアクセスの方法に関する状況の調査と検討の継続が示されていました。

2023年10月30日の総合科学技術・イノベーション会議「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」においては、科研費等を受けた研究成果の即時オープンアクセス化が義務付けられました。

学会では2024年度にLIS誌の即時オープンアクセス化検討WGを設置しました。2025年度の学会運営委員会では、WGによる提言を受け、2026年度からのOA化の方針を決定しました（[運営委員会議事抄録はこちら](#)）。